

● 浸水対策の取組事例

(「大規模災害発生時における地方公共団体の業務継続の手引き」／内閣府(平成28年2月)より)

4) 電力

(参考)

京都府宇治市では、非常用発電機の現状とその対策について明記している。

①現状

うじ安心館では自家発電設備の継続可能時間が約78時間となっており、停電が発生した場合でも最大3日間程度の発電に必要な燃料が地下タンクにおいて確保されている。一方で、その他の拠点施設においては継続可能時間が1日未満となっている。

図表 20 庁舎の自家発電設備等の現状

各拠点施設	1日平均電力使用量(Kwh)	自家発電設備			
		継続可能時間	設置場所	供給先・供給方法	燃料の確保方法
本庁舎	6,712	6時間	本館棟屋上	G回路(コンセントの約1/5、電灯の約1/5、電話設備、給排水ポンプ動力、防災防犯機器設備、庁内放送設備、電算サーバールーム用エアコン、エレベーター本館4台)	事業者への随時発注
		12時間	本館棟地下	電算サーバー専用	最寄の事業者への随時発注
うじ安心館	1,309	78時間	屋上	照明、サーバーなど有事の際に必要な設備全般へ各フロアにて部分的に供給が可能。	ポンプにて地下タンクより屋上タンクへ給油
黄檗体育館	831	2時間	黄檗体育館北側敷地内	照明設備の一部	事業者への随時発注
西宇治体育館	1,677	6時間	体育館屋上	照明、空調、コンセント、ポンプ類(分電盤選択操作可能)	事業者への随時発注

②対策

a) 燃料の確保

非常用電源の燃料を常日頃から補充し、災害時に最大限稼働できるよう準備しておくとともに、非常時における燃料確保の方策を事前に検討する。

b) 非常用電源の浸水対策

建物の地階や地上に設置されている自家発電設備については、風水害による浸水リスクを考慮し、必要があると認められる場合には、設置場所の嵩上げや浸水の心配のない階への移動等の対策を講じる。

c) 電力供給の優先順位を事前に明確化

非常用電源が稼働した場合は、通常よりも電力の供給に制限がかかるため、被災情報の収集・集約等の業務に必要なOA機器に電力が供給されるよう事前に優先順位を明確にする。

出典:「宇治市業務継続計画」(宇治市、平成25年)

